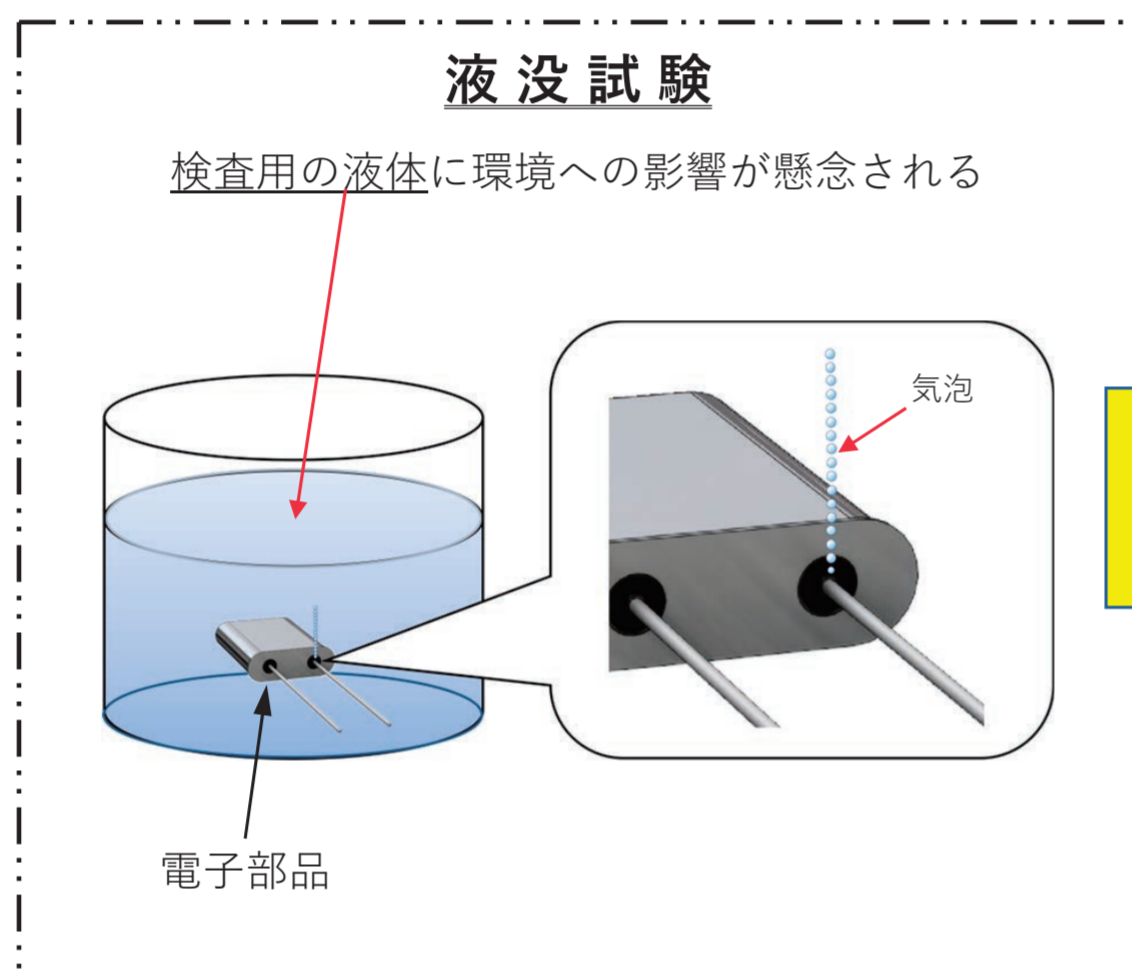


株式会社 フクダ

環境負荷を大幅に低減する 気密検査の提案

フッ素系不活性液体による液没試験から
圧縮空気によるエアリーク試験の切り替え



電子部品業界の気密検査は、フッ素系不活性液体を用いた液没試験を実施することが一般的です。フッ素系不活性液体とはフッ素を含む有機溶液の総称であり、各社から様々な製品が製造されています。

これらは地球温暖化への影響が少なからず存在し、二酸化炭素に対し数千倍もの地球温暖化係数をもつものもあります（二酸化炭素の温暖化係数を 1.0 とした場合）。

これに対し、圧縮空気を用いたエアリーク試験は検査媒体が空気であるため、環境に影響を与える要素は皆無であり非常にクリーンな検査方法といえます。また、上記の液没試験では検査可能なリークレートが 10^{-6} Pa・m³/s 台とされていますが、弊社が独自に開発した高感度センサを用いることで、エアリーク試験でありながら最小可検感度 8.5×10^{-8} Pa・m/s までの微小漏れ領域の検査を可能としました。

